

種 類

バ ネ 式 ( バネの力でブレーカーのスイッチを切ります。)

<p>製品名</p>	<p>①-1 ヤモリ (上付け)</p>	<p>①-2 ヤモリ (下付け)</p>
<p>写真</p>		
<p>大きさ</p>	<p>本体 縦145mm×横66mm×奥行55mm</p>	
<p>メーカー (問合せ先)</p>	<p>(株) リンテック21 TEL 03 - 5798 - 7801</p>	
<p>設置に必要な 配慮</p>	<p>ヤモリ本体を、漏電ブレーカーの「上部」に「垂直」でかつ「平面 (湾曲していない。) 設置 (貼り付け) 面で、上記の大きさの器具を設置 (貼り付け) るスペースが必要です。</p> <p>※ 漏電ブレーカーが設置されていない場合、メインブレーカーの上部に同様のスペースがあれば設置できます。</p>	<p>ヤモリ本体を、漏電ブレーカーの「下部」に「垂直」でかつ「平面 (湾曲していない。) 設置 (貼り付け) 面で、上記の大きさの器具を設置 (貼り付け) るスペースが必要です。</p> <p>※ 漏電ブレーカーが設置されていない場合、メインブレーカーの下部に同様のスペースがあれば設置できます。</p>
<p>遮断までの時間</p>	<p>いずれも、揺れを感知した直後</p>	

種 類

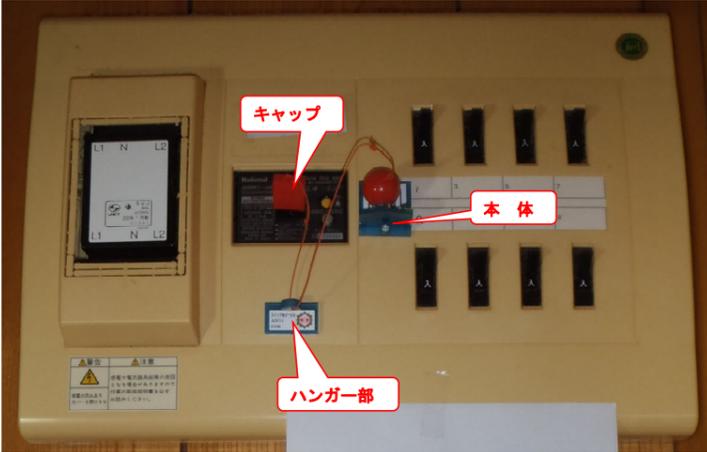
バ ネ 式 (バネの力でブレーカーのスイッチを切ります。)

<p>製品名</p>	<p>② ヤモリ・デ・セット</p>	<p>③ パワーヤモリ・セット</p>
<p>写真</p>		
<p>大きさ</p>	<p>※ メーカーのホームページでご確認ください。</p>	<p>※ メーカーのホームページでご確認ください。</p>
<p>メーカー (問合せ先)</p>	<p>(株) リンテック21      TEL 03 - 5798 - 7801</p>	
<p>設置に必要な 配慮</p>	<p>他の器具に比べると、「フタ」が下がります。(完全には閉まりません。)</p> <p>「ヤモリ本体」を分電盤の外に、遮断部である「アクチュエーター」を分電盤に両面テープで直接設置(貼り付け)します。</p> <p>「感震部」を設置する壁面の状況が、「砂壁」や「特殊な壁紙」等のため両面テープで設置(貼り付け)できない場合には設置できません。</p> <p>「遮断部」は「下側」にしか設置できません。</p>	<p>スイッチが硬かったり、スイッチのストロークが長い場合に使用する器具です。</p> <p>「ヤモリ本体」を分電盤の外に、遮断部である「パワーヤモリ本体」を分電盤に両面テープで直接設置(貼り付け)します。</p> <p>「ヤモリ本体」を設置する壁面の状況が、「砂壁」や「特殊な壁紙」等のため両面テープで設置(貼り付け)できない場合には設置できません。</p> <p>「遮断部」は「下側」にしか設置できません。</p>
<p>遮断までの時間</p>	<p>いずれも、揺れを感知した直後</p>	

種類

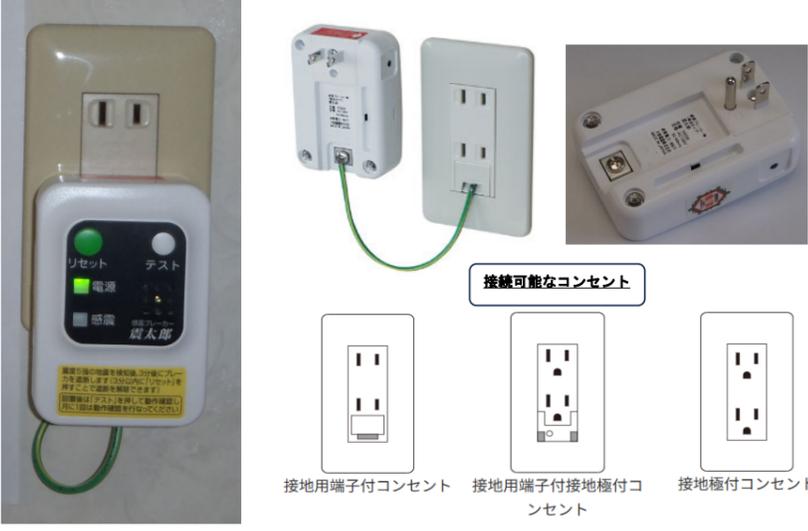
電池式(電磁石の力でブレーカーのスイッチを切ります。)

おもり玉式(おもり玉の力でブレーカーのスイッチを切ります。)

製品名	④ ピオマ	⑤ スイッチ断ボールⅢ
写真		
大きさ	<b>本体</b> 縦87mm×横62mm×奥行47mm <b>遮断部</b> 縦67mm×横67mm×奥行31mm	<b>本体</b> 縦58mm×横34mm×奥行28mm
メーカー (問合せ先)	(株) 生方製作所 TEL 0120-279-170	(株) エヌ・アイ・ピー TEL03-3823-6220
設置に必要な 配意	<p>壁面に「ホルダー」を木ネジで固定して、電気ケーブルで接続した「感震部」を差し込みます。</p> <p>ただし、設置する壁面がコンクリート等で「木ネジ」が使用できない場合には設置できない場合もあります。</p> <p>「分電盤」に直接設置(貼り付け)する「遮断部」が相応の重量があり、この「作動部」が設置できるスペース(縦67mm×横67mm)と、しっかり両面テープで固定できる「垂直」でかつ「平面(湾曲していない。)」設置(貼り付け)面が必要です。</p> <p>「遮断部」は「上側」にも設置できます。</p>	<p>上の写真のとおり、おもり玉が載る台座が付いている「本体」と、スイッチに被せる(又は、引っ掛ける)「キャップ」に接続された「ヒモ」が通る本体上部の「ハンガー部」を切り離して設置することができるので、分電盤の「垂直」でかつ「平面(湾曲していない。)」設置(貼り付け)面が狭い場合にも設置できます。</p> <p>スイッチが硬かったり、スイッチのストロークが長い場合設置できない場合があります。</p> <p>「分電盤」の下部に、棚や家具等がある場合「おもり玉」が落下するスペースがない場合は設置できません。</p>
遮断までの時間	揺れを感知してから3分後	揺れを感知した直後

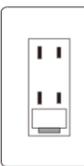
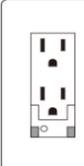
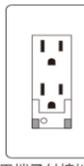
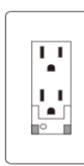
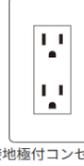
種類

コンセント差し込み式

製品名	⑥ 震太郎	⑦ 地震みはりロポ
写真	 <p>接続可能なコンセント</p> <p>接地用端子付コンセント 接地用端子付接地極付コンセント 接地極付コンセント</p>	 <p>接続可能なコンセント</p> <p>接地用端子付コンセント</p> <p>接地用端子付接地極付コンセント</p>
大きさ	<p>本体 縦90mm×横62mm×奥行32mm</p>	<p>本体 縦135mm×横76mm×奥行35mm</p>
メーカー (問合せ先)	<p>大和電器(株) TEL 03-3714-9331</p>	<p>(株)ケーティーコンセプト 販売代理店 (株)サルバ TEL 045-228-5487</p>
設置に必要な 配慮	<p>本体を両面テープや木ネジで固定する必要はなく、付属するアース線をコンセントのアース端子に接続し、本体の3端子部分の差し歯を外して、通常の差し歯をコンセントに差し込むだけで設置することができます。</p> <p>又、3端子型のコンセントの場合、箱から出した状態(3端子)のままコンセントに差し込みます。(アース線の接続も必要ありません。)</p>	<p>壁面に「ホルダー」を木ネジで固定して、「感震部」を差し込み、接続されている電源コードとアース線を接続します。</p> <p>ただし、設置する壁面がコンクリート等で「木ネジ」が使用できない場合には設置できません。</p> <p>感震部につながる電気ケーブルのローリングタップにつながるアース線をコンセントのアース端子に接続し、プラグを指定方向に差し込みます。</p>
注意事項	<p><b>① 「漏電ブレーカー」が分電盤に設置されている事</b>  <b>② 凸(出っ張り)の無い「アース端子」が付いた「コンセント」又は「3端子型コンセント」の1口が専用で使用できる事</b>  <b>③ 「適応漏電ブレーカーの定格感度電流」の「定格感度電流」が「30mA以下」である事</b></p> <p><b>上記①、②及び③が設置の必須条件となります。</b></p>	<p><b>① 「漏電ブレーカー」が分電盤に設置されている事</b>  <b>② 「アース端子付きコンセント」の1口が専用で使用できる事</b>  <b>③ 「適応漏電ブレーカーの定格感度電流」が「30mA以下」である事</b></p> <p><b>上記①、②及び③が設置の必須条件となります。</b></p>
遮断までの時間	<p>揺れを感知してから3分後</p>	<p>揺れを感知してから3分後(初期設定)          ※ 即時遮断、1分後に遮断、2分後に遮断に変更可能</p>

種類

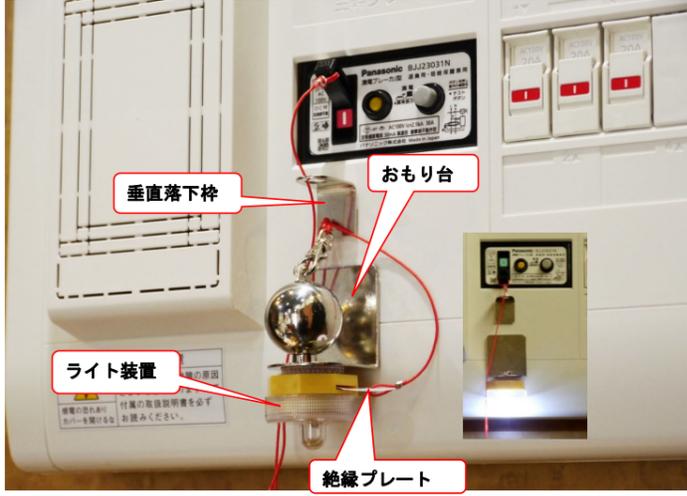
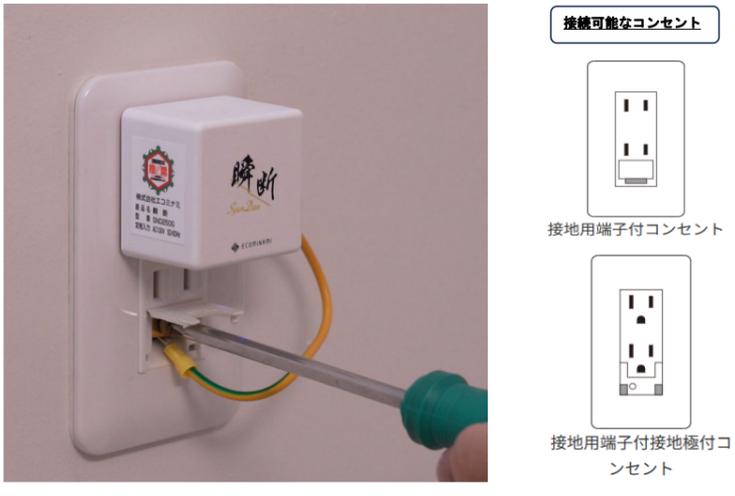
コンセント差し込み式

製品名	⑧ 一発遮断	⑨-1 ki感震センサー（アース線タイプ）	⑨-2 ki感震センサー（3端子タイプ）
写真	  <p>接地用端子付コンセント</p>  <p>接地用端子付接地極付コンセント</p> <p>接続可能なコンセント</p>	  <p>接地用端子付コンセント</p>  <p>接地用端子付接地極付コンセント</p> <p>接続可能なコンセント</p>	  <p>接地用端子付接地極付コンセント</p>  <p>接地極付コンセント</p> <p>接続可能なコンセント</p>
大きさ	<p>本体 縦56mm×横74mm×奥行36mm</p>		<p>本体 縦111mm×横30mm×奥行45mm</p>
メーカー（問合せ先）	<p>多摩岡産業（株） TEL 042-361-6585</p>		<p>ケー・アイ技術（株） TEL 0598-20-8511</p>
設置に必要な留意	<p>「感震部」（本体）を、「両面テープ」と「木ネジ」で壁面に固定し、「アース線」及び「プラグ」をコンセントに接続します。</p> <p>コードが届く範囲であれば、コンセントの「上下左右」のいずれでも設置できます。</p> <p>ただし、設置する壁面がコンクリート等で「木ネジ」が使用できない場合には設置できません。</p>	<p>「感震部」（本体）を、「木ネジ」で壁面に固定し、「アース線」及び「プラグ」をコンセントに接続します。</p> <p>コードが届く範囲であれば、多少の設置位置の移動はできます。</p> <p>ただし、設置する壁面がコンクリート等で「木ネジ」が使用できない場合には設置できません。</p>	<p>「感震部」（本体）を、「木ネジ」で壁面に固定し、「アース端子」がある3本の差し歯がある特殊な「3端子プラグ」をコンセントに接続します。</p> <p>※アース線の接続の必要はありません。</p> <p>コードが届く範囲であれば、多少の設置位置の移動はできますが、コードが太くて硬いためあまり自由度はありません。</p> <p>ただし、設置する壁面がコンクリート等で「木ネジ」が使用できない場合には設置できません。</p>
注意事項	<p>① 「漏電ブレーカー」が分電盤に設置されている事 ② 「アース端子付きコンセント」の1口が専用で使用できる事 ③ 「適応漏電ブレーカーの定格感度電流」が「30mA以下」である事</p> <p><u>上記①、②及び③が設置の必須条件となります。</u></p>		<p>① 「漏電ブレーカー」が分電盤に設置されている事 ② 「3端子型コンセント」の1口が専用で使用できる事 ③ 「適応漏電ブレーカーの定格感度電流」が「30mA以下」である事</p> <p><u>上記①、②及び③が設置の必須条件となります。</u></p>
遮断までの時間	<p>揺れを感知した直後</p>	<p>揺れを感知してから3分後</p>	

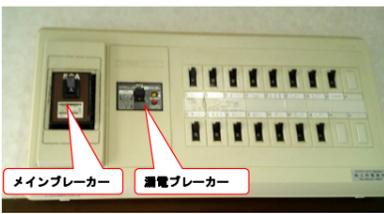
種類

令和6年度追加器種 / '光る'おもり君 (おもり玉式)

令和6年度追加器種 / 瞬断 (コンセント差し込み式)

製品名	⑩ “光る”おもり君 (おもり玉式)	⑪ 瞬断 (コンセント差し込み式)
写真		
大きさ	<p>垂直落下枠 縦18mm×横15mm×奥行20mm                      おもり台 縦36mm×横30mm×奥行30mm                      ライト装置 縦25mm×横30mm×奥行30mm</p>	<p>本体 縦45mm×横45mm×奥行32mm</p>
メーカー (問合せ先)	<p>(株) ブルーウッド                      TEL 0568 - 33 - 9061</p>	<p>(株) エコミナミ                      TEL 042 - 378 - 5222</p>
設置に必要な配意	<p>分電盤への取付けは「おもり台」裏側の両面テープにより貼り付けます。</p> <p>「おもり玉」は、揺れを感知すると「おもり台」から落下し、「ひも」が引っ張られて「ブレーカースイッチ」が「切」へ切り替わります。</p> <p>落下と同時に「絶縁プレート」が「LEDライト装置」から抜けて「LEDライト装置」が点灯します。</p> <p>「LEDライト装置」のライト部分は、取り外して懐中点灯としても使用することができます。</p>	<p>アース付きコンセントに設置し、揺れを感知するとアース線に疑似漏洩電流を流して分電盤に設置されている漏電ブレーカーが作動します。</p> <p>取り付けには電気工事が不要で、裏面の両面テープとプラグの差し込みと、アース線の接続で簡単に取り付けできます。</p> <p>LED(青)の点灯により正常作動(待機状態)の確認ができます。</p> <p>電池を使わない機構であり、電力もほとんど消費しません(LED点灯のみ)。</p> <p><b>注意事項</b>                      ① 「漏電ブレーカー」が分電盤に設置されている事                      ② 「アース端子付きコンセントの1口が専用で使用できる事」                      ③ 「適応漏電ブレーカーの定格感度電流」が「30mA以下」である事                      上記①、②及び③が設置の必須条件となります。</p>
遮断までの時間	揺れを感知した直後	

## ■ 標準的な分電盤

<p><b>特徴</b></p>	<p>① フタ付分電盤（標準/メインブレーカー有）</p> 	<p>② フタ無し分電盤（標準/メインブレーカー有）</p> 	<p>③ フタ無し分電盤（標準/メインブレーカー無し）</p> 
<p><b>写真</b></p>	<p>④ スイッチ断ボールⅢ</p> 	<p>⑤ ヤモリ（上付け）</p> 	<p>⑥ ピオマ</p> 
<p><b>説明</b></p>	<p>■ 「簡易型感震ブレーカー」のうち、分電盤に直接設置する機種は、原則、分電盤に設置されている「漏電ブレーカー」に設置します。</p> <p>「漏電ブレーカー」が設置されていない場合には、「メインブレーカー(アンペアブレーカー)」に設置する場合があります。</p> <p>なお、設置にあたっては、「漏電ブレーカー」、又は「メインブレーカー(アンペアブレーカー)」の「上」又は「下」に「垂直」でかつ「平面（湾曲していない。）」で、寸法表に記載されている各器具を両面テープで貼り付ける「縦」・「横」（奥行も）の広さ（スペース）が必要です。かつ、「漏電ブレーカー」、又は「メインブレーカー(アンペアブレーカー)」が凸（出っ張り）や凹（引っ込み）がある形状の場合、取り付けられない事がありますので注意が必要です。</p> <p>写真① 「フタ付」の「分電盤」です。</p> <p>「フタ」を開けると左から「メインブレーカー(アンペアブレーカー)」、その右側に「漏電ブレーカー」が取り付けられています。</p> <p>分電盤に直接設置する「ヤモリ」、「ヤモリ・デ・セット」、「パワーヤモリ」、「ピオマ」を設置した場合、「フタ」が完全には閉まりません。</p> <p>又、「スイッチ断ボールⅢ」を設置する場合、台座をフタの外に設置（接着）させる必要があります、分電盤本体とフタはスイッチにつなぐ「ヒモ」を通しておく隙間を設けておく必要があります。</p> <p>写真② 標準型の「分電盤」です。</p> <p>左に1cm程度の凸（出っ張り）がある形式の「メインブレーカー(アンペアブレーカー)」、その右側に「漏電ブレーカー」が設置されている分電盤です。</p> <p>この「メインブレーカー」の場合、凸（出っ張り）がある形式のため、上・下の設置（貼り付け）スペースがありません。</p> <p>しかし、右側の「漏電ブレーカー」は、「上」又は「下」に「垂直」でかつ「平面（湾曲していない。）」設置（貼り付け）面があるため、このスペースに貼りつけられる大きさ（縦・横）の機種が設置できます。</p> <p>写真③ 標準型の「分電盤」です。（最近、このような「メインブレーカー(アンペアブレーカー)」が設置されていない「分電盤」を見かけます。）</p> <p>左側に「メインブレーカー(アンペアブレーカー)」が設置されておらず、その右側に「主幹漏電ブレーカーが設置されている分電盤です。</p> <p>「漏電ブレーカー」は、「上」又は「下」に「垂直」でかつ「平面（湾曲していない。）」設置（貼り付け）面（スペース）があり、凸（出っ張り）や凹（引っ込み）んでいないため、このスペースに貼りつけられる大きさ（縦・横）の機種が設置できます。</p> <p>写真④ 「スイッチ断ボールⅢ」の設置例です。</p> <p>「分電盤」の「漏電ブレーカー」の「下」に台座を設置（貼り付け）し、ヒモを「漏電ブレーカー」のスイッチにアダプターを使って接続します。</p> <p>写真⑤ 「ヤモリ」の設置例です。</p> <p>「分電盤」の「漏電ブレーカー」の「上」に台座を設置（貼り付け）しています。（「下」に設置することもできます。）</p> <p>写真⑥ 「ピオマ」の設置例です。</p> <p>「分電盤」の「漏電ブレーカー」の「下」に「遮断部」を設置（貼り付け）し（「上」に設置する事もできます。）、「左側の壁面に「ホルダー」を木ネジで固定して、電気ケーブルを続した「感震部」を差し込みます。</p> <p>「ピオマ」の場合、直接「分電盤」に設置（貼り付け）する「遮断部」が相応の重さがあり、貼り付ける分電盤の面に完全に貼り付けられる「垂直」でかつ「平面（湾曲していない。）」の、縦67mm×横67mmの広さ（スペース）が必要です。</p>		

## ■ 設置できない分電盤

<b>特徴</b>          <b>写真</b>	▼ 木製の箱の中で配線が露出  	▼ 鉄製の箱の中で配線が露出  	▼ 全体が露出  
<b>設置できない理由</b>	○ 分電盤の形状が、「木製のフタ付きの箱の中」や「鉄製のフタ付きの箱の中」で、背面の木の板等に直接取り付けられているタイプは、分電盤に直接設置しなければならない「バネ式」、「おもり玉式」及び「電池式」は、器機を設置するスペースが無いため設置できません。  ○ 分電盤に漏電ブレーカーが設置されていない場合や、設置されていても「定格作動電流」が30mA以上であったり、コンセントでの計測値でアースが正常に設置されていない場合には、「コンセント差し込み式」は設置できません。		○ 形状が特殊で、分電盤に直接設置する「バネ式」、「おもり玉式」及び「電池式」で対応している機種はありません。  ○ 分電盤に漏電ブレーカーが設置されていないため、「コンセント差し込み式」は設置できません。

<b>特徴</b>          <b>写真</b>	▼ 分電盤の前面が湾曲している。  
<b>設置できない理由</b>	○ 「スイッチ断ボールⅢ」を設置の例 「分電盤」の前面が「上」・「下」方向に湾曲しているため、中央の「垂直」でかつ狭い「平面（湾曲していない。）」部分に、スイッチ断ボールⅢの台座のガイド（上部）を切り離して設置（貼り付け）しています。  ○ その他 「分電盤」の前面が「上」・「下」方向に湾曲しているため、この部分に設置する（貼り付ける）と、機械の背面の両面テープが密着せず、剥がれてしまう可能性がある。  又、作動用の「バンド」がある「ヤモリ」（「ヤモリ・デ・セット」、「パワーヤモリ」を含む。）や「ピオマ」を、この湾曲した位置に設置（貼り付け）すると、「バンド」が漏電ブレーカーのスイッチに有効に接触しない可能性があります。